

## ヴァレオ、CES 2020 でモビリティ変革の中心にあるイノベーションを披露

2020年1月5日米ラスベガス発表 – ヴアレオは2020年1月7日から10日まで米ラスベガスで開催されるCESに出展します。近年、CESではモビリティというテーマがますます顕著になり、移動方法の根本的な変化を反映しています。車両はますます電動化、自動化され、接続されています。ヴァレオは世界中で進んでいる自動車革命に適応した独自の製品ポートフォリオを揃えました。

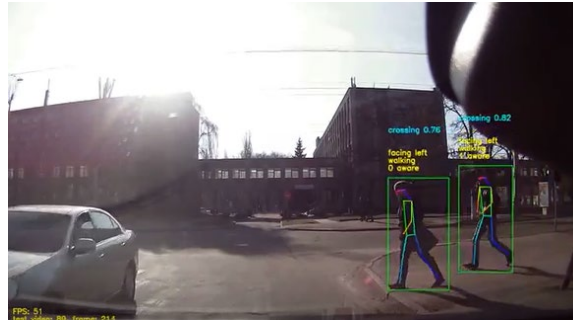
ヴァレオは今回、中国の大手食品流通サービスプロバイダーである Meituan Dianping との協業で開発した、自律型の電動配送ドロイド Valeo eDeliver4U を世界初公開します。フル電動の48Vシステムを搭載し、ヴァレオの認識システムによって自動でルートを検知することができるため、ゼロエミッションでの都市部の配送に適しています。このドロイドは、ヴァレオのプラットフォームが提供するモジュールの活用例の一つです。これらのプラットフォームは、既存の自動車のみならず、このような都市向けの小型モビリティにも搭載できます。



ヴァレオのセンサーと電動化技術は、フランスのスタートアップ TwinswHeel が開発した2台のドロイドにも搭載されています。TH03とTH05の2台の自律ドロイドは、それぞれ60kg、130kgの荷物を時速7km/hで輸送でき、5cmから3m離れている人を追尾します。これらのドロイドは、工場、メンテナンスセンター、倉庫、ショッピングセンター、空港、駅などのクローズドな場所や屋外で使用でき、物流や配送のタスク実行に役立ちます。

ヴァレオは、パワートレインシステムに加えて、世界をリードするバッテリーサーマルマネージメントの専門知識によって、電気自動車の開発で大きな役割を果たしています。あらゆるサーマルシステムをスマートに制御し、充電と走行の双方に最適なバッテリー性能を確保しながら、バッテリーの寿命を維持します。2020年から、ヴァレオのバッテリー冷却システムは、ドイツのある大手自動車メーカーの電気自動車プラットフォームに搭載されます。さらに、ヴァレオはアフターマーケット向けのコンポーネントとしてもサーマルモジュールを提供します。これにより、すでに上市されているシステムも、最新の冷却技術の恩恵を受けることができますようになります。

より安全なモビリティのために、ヴァレオは人工知能を活用するイノベーションとして、CES 2020にて世界で初めてヴァレオ Move Predict.aiを発表します。これは、歩行者、自転車、スケーター、スクーターなど、車両のすぐ近くにいる交通弱者を検出し、その意図を予測します。最新世代の魚眼カメラとヴァレオ SCALA® LiDARと人工知能により車両周辺の360°を認識し、たとえば携帯電話を使用しているかどうかを考慮して、道路を横断するかなど、彼らの意図や軌道を予測します。そして、道路利用者との潜在的に危険な行動をドライバーに即座に警告し、必要に応じて緊急ブレーキシステムを作動させます。



ヴァレオは、ヒュンダイ、ヘキサゴンの測位インテリジェンス部門、大手モバイルネットワークオペレーターと、車の道路上の位置を数センチレベルの精度で特定できる新技術ヴァレオ SpotLocate を実演します。GPS による測位は、特に自動車業界で大変普及しています。しかし、この技術での精度は、数メートル以内(最適な条件で 1.5~3 メートル)にとどまり、たとえば車がどの車線にあるかを判断するには不十分です。ヴァレオ SpotLocate では精度が 10 倍高まり、道路の安全性向上に貢献します。これにより緊急ブレーキの後、車両はその操作と正確な位置情報を他の車両と共有することができます。

さらに、ヴァレオは、ローカリゼーションアルゴリズムとヴァレオの認識システムを利用したマッピングシステムによって車両の位置を非常に正確に特定できるシステム Drive4U Locate を実演します。このダイナミックマップは、常時、車両からの入力を受け、クラウドソーシングによって更新されています。ラスベガスの道路で 5 台の車両を使用して行われる実演では、Drive4U Locate デモカーとヴァレオ SCALA LiDAR を装備した 4 台のタクシーを使います。各車両は、ヴァレオ LiDAR によって収集された情報をクラウドに送信し、ダイナミックマップの作成と継続的な更新に寄与します。その代わりに、各車両は直接検知した情報をダイナミックマップと比較することで、センチメートルレベル(補正なしの標準的な GPS 情報では 5m であるのに対して 10cm 以内)の正確な位置情報を享受します。ヴァレオ Drive4U Locate は、車両フリート管理の最適化に加えて、さらなる安全性をもたらす自動運転車の開発を促進します。

ヴァレオ Voyage<sup>XR</sup> とヴァレオ Call<sup>XR</sup> は、友人や愛する人とバーチャルに車両に同乗し、没入型のコミュニケーションエクスペリエンスを提供するシステムです。ヴァレオ Voyage<sup>XR</sup> ユーザーは、バーチャルリアリティヘッドセットとジョイスティックを装着すると、たとえ世界の反対側にいても、車両の後部座席にテレポートしたかのように、周囲の状況を 360° 見ることができます。彼らはドライバーを見て、対話することができます。一方、仮想の乗客は、バックミラーに表示されるアバターの形で実際に運転しているドライバーからも見えます。このテレポーターションは、車両の外部と車室内に搭載されたヴァレオセンサーと接続性を組み合わせることで実現します。Valeo Call<sup>XR</sup> システムでは、タブレットやスマートフォンを使って車両のドライバーや乗客とビデオ会議を開始し、車両の内外で何が起きているかを確認することができます。

ヴァレオ Smart Cocoon は、体格、心拍数、着用している服の種類などの特性に応じて、それぞれの乗員に合わせてパーソナライズされた快適なバブルを作ります。各人のニーズに合わせて環境を調整することでエネルギー効率も向上し、最大で 30% の節約になります。このシステムは、人工知能とさまざまなセンサーで検知された情報を活用して、温度、照明、効果音、香りを組み合わせてパーソナライズされた快適さを提供します。たとえば、室内照明は温度を反映してより快適に感じるように自動的に調整されます。疲労、注意散漫、感情、ストレスの兆候を検出し、ドライバーと乗員の生理学的状態を考慮することができる共感的な車になるのです。

イノベーションはヴァレオの戦略の中心です。グループは、2018 年に 20 億ユーロ以上を研究開発に投資しました。これは、ヴァレオの OEM 売上の 13% 近くに相当します。CES 2020 で発表するヴァレオの革新的な技術は、モビリティが将来どのようになるかについての実用的な洞察を示しています。ヴァレオが開発した製品と機能の中には、現在量産されている車両にすでに搭載されているものもあり、未来はすぐそこにあるといえるでしょう。

自動車部品サプライヤーであるヴァレオは、世界の全自動車メーカーのパートナーです。高い技術力を持つヴァレオは、CO<sub>2</sub> 排出量の削減と直観的なドライビングの発展に貢献する革新的な製品とシステムを提供します。2018 年度のヴァレオグループの売上高は 193 億ユーロであり、OEM 売上の 13% を研究開発に投資しました。ヴァレオは、33 カ国に 189 カ所の工場、20 カ所の研究センター、39 カ所の開発センター、15 カ所の物流センターを構え、約 115,500 人の従業員を擁しています。ヴァレオはパリ証券取引所に上場しています。

報道関係者お問合せ先:  
株式会社ヴァレオジャパン 広報 石井  
Tel: 03-5465-5710 (代表)  
会期中ご連絡先: 090-6655-6429 (石井)  
WEB サイト: <http://www.valeo.co.jp/>